

### 3学期始業式 校長講話

皆さんおはようございます。3学期の始め、そして新しい年を迎え、今日は一つだけお話しします。それは2学期の終業式で皆さんに出した課題についてです。司会の西幅先生の言うとおりに、皆さんからどんな答えが聞けるか、冬休み中ワクワクしていました。

今日はいつもより少し話が長くなりますが、どうぞ協力をお願いします。

2学期の終業式で、皆さん出した課題はこうです。

「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいか。」

その答えを冬休み中に考えて来てもらいたい、1月8日の始業式で何人かを指名するので、答えてもらいます、と。正解はありませんが、いろいろなアイデアが皆さん一人一人の頭の中と心の内にあると信じている、とも言いました。つまり、皆さんがそれぞれ、自分の問題としてどう考えるのか、それを知りたいと思ったのです。

ただ、授業でもそうですが、いきなり指名されても、こんなことを考えているのは自分だけかも知れない、とか、笑われるかも知れないから恥ずかしい、とか、なかなか答えにくいかも知れませんが、今から3分間の告白タイムを取ります。相談タイムではありません、告白タイムです。いい考えはないかと相談するのではなく、自分の考えを隣の人に伝えるだけです。900人規模でやりますので、スムーズに進むよう、方法を説明します。

各学年奇数クラスの方は左を向いてください。偶数クラスの方は右を向いてください。奇数クラスと偶数クラス、それぞれ向かい合った隣のクラスの人同士で、前の方から順番に握手をしてください。男女は問いません。握手する相手がいなくてあぶれてしまったら、自分の前で握手をした2人に混ぜてもらって、3人組になってください。原則は2人組ですが、3人でも構いません。もし4人になってしまったら、2人ずつ2組に分かれてください。それでは、自分の考えを伝えるべき相手をお互いに確認してください。

お互いに相手が確認できたところで、まず、奇数クラスの方が偶数クラスの相手に、1分間で自分の考えを伝えてください。偶数クラスの方は、感想を言う必要はありません。聞くだけでいいです。1分経ったところで合図をしますので、話の途中でもやめてください。それでは始めます。用意、始め。……やめ。

次に交代して、今度は偶数クラスの方が奇数クラスの人に1分間で自分の考えを伝えてください。いきますよ。用意、始め。……やめ。

3人組のところがあるでしょうから、最後にもう1分取りますので、3人目の人が話をしてください。2人組のところは、すぐ後に指名されても簡潔に答えられるように、その1分間で自分の考えを頭の中で整理してください。では用意、始め。……やめ。

さて、相手に伝えられましたか？ それでは、何人かに発表してもらいましょう。

始めに1年生、1年〇組〇〇くん。(その場で起立して〇〇くんの発表) どうもありがとう。  
もう一人、1年〇組〇〇さん。(その場で起立して〇〇さんの発表) どうもありがとう。

次に2年生、2年〇組〇〇くん。(その場で起立して〇〇くんの発表) どうもありがとう。  
もう一人、2年〇組〇〇さん。(その場で起立して〇〇さんの発表) どうもありがとう。  
最後に3年生、3年〇組〇〇くん。(その場で起立して〇〇くんの発表) どうもありがとう。  
もう一人、3年〇組〇〇さん。(その場で起立して〇〇さんの発表) どうもありがとう。  
みんな素晴らしい。いろいろなアイデアを聞かせてもらいました。

実は皆さんはもう、世の中を良くするための第一歩を踏み出しました。そのための階段を一段登りました。もう気づいているでしょうが、それはつまり「考えること」であり、「意識すること」です。「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいか。」そのことを自分の頭で考えること、そういう意識を持つことです。

さあ、それでは階段の二段目です。自分に何ができるのか、自分の頭で考えたら、次はそれを実行しましょう。

とは言え、2学期の終業式で話したようなノーベル賞を取ることは、なかなかできることではありません。「世界を良くする」とか「世の中を良くする」なんて、そんな大それたことはとてもできそうもない。例えば「中東の紛争をなくす」とか、「貧困をなくす」とか「悪を滅ぼす」とか、そんなにすごいことはできない。

僕はアイアンマンじゃないし、フォースなんて持ってない。

でも、「たいしたことはできない」と「何もできない」は違います。根本的に物事を解決することはできなくても、少しずつでも解決に近づけることは、いくらでもあります。「世界中の人々」とか「困っている全ての人」に対してはできなくても、自分の目の前にいる一人にだったら、自分の身近にいる人にだったら、何かできるかも知れない。

I Sに象徴されるテロに怯える国際社会に安心をもたらすことは自分にはできなくても、電車やバスでお年寄りに席を譲ることはできるでしょう。

東日本大震災の被災地復興のために、現地ボランティアに参加することは難しくても、東北で採れた野菜や海産物を買うことはできるでしょう。

県内の交通事故死をゼロにはできなくても、自分が自転車に乗るときにルールとマナーを守ることはできるでしょう。

皆さんが、たといノーベル賞の梶田さんやマララさんのように、世界中から尊敬と評価を得られなくても、ハンディキャップを持ったお年寄りから「ありがとう」と感謝されることは、いくらでもできます。そのために自分に何ができるのか、それを自分の頭で考えたら、次は勇気を出して行動しましょう。そんなあなた方一人一人の考えと行動が、毎日少しずつでも周囲を正したり、明るくしたり、喜ばせたりできれば、あなたから発せられた小さな幸せの輪が、毎日少しずつ広がります。そして、その輪に触れた人は、昨日より少しだけ幸せが増して、あなたと同じように「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいか」と、考えて行動するようになるでしょう。

そしてもう一つ。今年、皆さんを大きな変化が待っています。それは18歳選挙権です。

秋に新聞部の皆さんが大宮西高校新聞で大きく特集記事を組んだのを、皆さんも読んだことでしょう。この新聞は、市内すべての中学校にも送りました。高校生が18歳選挙権についてどんな風に受け止めているか、後輩になる中学生にも知ってもらいたいと考えたからです。

ここにいる3年生の皆さんは全員、少なくとも今年の夏の参議院選挙から投票ができます。今の2年生の中でも、投票日に満18歳に達している人は投票ができます。日本ではようやく認められた18歳選挙権ですが、欧米諸国では以前から18歳で選挙権を持っていたり、国によっては16歳から選挙権が与えられたりしていて、すでに皆さんの年代では選挙に参加しています。

ところが、実際の我が国の選挙はどうかと言えば、例えば3年前に半数が改選された参議院議員選挙では、全国の投票率は52%くらいでした。20歳代に限ると33%に過ぎません。実に20歳代の3人に2人は棄権しました。自分たちの代表者を選んでいません。昨年8月の埼玉県知事選挙では、投票率はわずか26%でした。その前の上田知事3選のときの選挙では25%を切っていました。4人のうち3人が棄権したということです。

確かに自分一人が投票してもしなくても、大勢に影響は無いかも知れません。でも、先に言ったように、「たいしたことはできない」と「何もできない」は、全く違います。

どうせ自分一人が何かしたって、何も変わりはないとあきらめてはいけません。

どうせ自分がやらなくたって、他の誰かがやってくれるだろうと高をくくって、人任せにしてはいけません。

選挙は本来、今の自分にできる、世の中をもっと良くするための、より良い未来を創るための、大きなチャンスです。そのためのチャンスをみすみす逃してはいけません。

「世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいか」と考えたとき、自分が期待する、自分の考えを代弁してくれる立候補者に投票するという行動を、決して疎かにしてはいけません。

18歳選挙権に関して国が作成したテキストを、12月に皆さん全員に配りました。ぜひ自分でよく読んで欲しい。そして、選挙権をしっかりと行使してほしい。52%や26%の投票率を、自分一人だけで100%にすることはできません。でも、自分自身の生涯投票率を100%にすることは、ここにいる全ての皆さんにできることです。そのためには必ず投票すること。もし期待できる立候補者が見当たらなければ、自分の考えを白票として示すこともできます。

自分たちの未来をあきらめないこと、人任せにしないこと。選挙はその一つの例です。先ほど6人の皆さんに発表してもらったことのように、そのために自分にできること、すべきことを、自分で考えて、意識して、行動してください。

今年も皆さんのすべての活動に期待しています。

Pride of the West、西高の誇りを伝えよう。